

ゆ ず り 葉

— 君もまた次のきみへ —



物語に
こめられたのは、
家族への想い。

物語にこめられたのは、
家族への想い。



【ゆずり葉の木】

ユズリハ科の常緑高木。葉は長楕円形でつやがあり、裏面は白緑色で、柄は赤く、枝先に集って互生する。新葉が出てから古い葉が落ちるので、新旧相ゆずるという縁起を祝って新年の飾り物に使う。

全日本ろうあ連盟 創立60周年記念映画製作委員会

安藤豊喜製作委員長 挨拶



財団法人全日本ろうあ連盟
理事長 安藤 豊喜

手話を生活言語としているろう者の社会的な理解は、その障害が外見から識別できないこともあって十分でなく、聞こえる人々との交流にも制約があります。情報・コミュニケーションの制約は、判断や決定に問題のある人間との先入観をもたらします。そのために、自動車運転免許を含めた職業資格取得の道が閉ざされていました。私たちは、手話通訳事業の制度化や能力を高めるための教育が整備されれば、あらゆる分野への挑戦が可能であり、社会有用の人材になり得ると訴え続け、その実現をめざしてきました。現在、ろう者も運転免許はもとより、薬剤師、医師免許等の資格取得が可能になりました。

しかし、私たちの社会参加と平等の環境を実現するには、まだ、課題が山積していますので、今後も社会啓発に務めて行かねばなりません。今、高齢少子、IT技術、グローバル化に対応するための改革が推進されています。障害者福祉の分野でも、日本政府が賛成し、署名した国連・障害者権利条約が発効し、手話の言語的な認知や差別の完全撤廃を指標とした取り組みが求められています。この時にあたり、ろう者の過去、現在、未来を映像によって描き出し、国民の皆さんと共感し合い、ろう・難聴児に希望を与え、その親を励まし、ろうの当事者を勇気づける目的をもって、映画制作と全国上映を計画いたしましたので、事情をご賢察くださいますのご支援をお願い申し上げます。

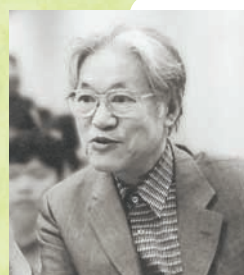
推薦文



ニッポン映画

現実としっかりつかまえて、
しかも詩情あふれる作品です。
龍野考ごなければ、
こう書けないでしょう。
脱帽しました。

脚本家 ジェームス三木



佐藤忠男

シナリオ「やずり葉」、興味深く拝見しました。
一般にあまり知られていない問題について広く
知らせる作品として有意義な映画になることを
うと思います。いい映画になることを期待します。

映画評論家/日本映画学校校長 佐藤忠男

| 映画「ゆずり葉」の製作にあたって



全日本ろうあ連盟は、お蔭様で昨年（2007年）創立60周年を迎えることができました。

私どもは、1947〔昭和22〕年に組織を立ち上げて以来、聴覚、言語に障害を有し、手話を生活言語としているろう者の社会参加と自立を基本的な目標として全国的に福祉運動を展開してきました。

国民全体の人権意識が高まり、ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザインなどの理念の浸透に後押しされて、今日、私どもの願いであった重度聴覚障害者の自動車運転免許取得が可能になり、聴覚障害者が医師国家試験に合格するなど発展を遂げています。福祉や基本的人権が不十分な時代を経て、手話の国民的な普及や手話による情報・コミュニケーションの整備は進みましたが、高齢化や少子化により今後の福祉のあり様が深刻な問題になってきております。

そこで当連盟は、不遇の時代を生き抜いたろう者や現代に生きる若いろう者、未来を志向するろう児などの実像を国民の皆さんに紹介する映画を製作することにしました。

その目的の一つは、聴覚障害者を含めたすべての障害者が、自身の障害を正しく認識し、自己の努力とその努力を实らせる社会的、福祉的な環境の実現に努力してきた経過や現在の社会状況を認識し、勇気と確信を不動にすることです。

二つ目は、障害のない多くの皆さんに、障害者の生活、期待、夢などを理解いただき、障害が特別視されない社会をさらに推進していくことです。

このような気持ちを込めて、当連盟創立60周年記念事業として『ゆずり葉』というタイトルの映画製作を企画しました。映画監督・脚本、総合プロデューサー、メインキャストなどはろう者が中心となり、新しい視点での映画製作で、2009年6月に上映初日を迎える予定です。

| 映画作品の構想(コンセプト)

映画作品の構想(コンセプト)をよりわかりやすく国民に伝えるために、以下のとおりまとめました。この構想に基づいた映画を制作し、多くの方々に見ていただきたいと思います。

- (1) ろう者が差別や偏見に悩みながら人間として生きていく姿を描き、観る人に多くの感動と勇気を与えていきます。
- (2) たくましく生きるろう者の姿から、ろうの子どもたちに夢と希望を、そしてその子どもたちの親に元気を与えていきます。
- (3) ろう者が脚本を書き、監督を行い、映像をつくります。ろう者の言語である手話、手話に伴う独特の表情、体の動きを演技の中に取り入れていきます。新しい表現方法や可能性を見出し、独自の映像文化を創造していきます。

| 早瀬憲太郎監督からのメッセージ

「この映画のメインテーマは『ゆずり葉』です。

これは実存する木の名前ですが、詩人河井醉茗(すいめい)の詩の題名でもあります。この詩で謳われている『ゆずること、ゆずられること』の大切さが見失われがちな現代社会において今こそ多くの人に伝えていきたいと思ひ監督をやらせていただくことになりました。

ろう者が主人公で『ろう運動』が題材となっていますが、人間としての思いや信念を人間ドラマとして描き、ろう者も健聴者も一緒に観て楽しめる映画にしたいと思っています。」



映画評論家佐藤忠男氏にシナリオを賞賛された早瀬監督。

早瀬監督の紹介



奈良県出身。東京都五反田でろう児対象の学習塾早瀬道場を経営。大塚ろう学校で教育相談指導員や非営利団体スマイルフリースクール理事長を務める。長年ろう児のための映像教材制作に関わり数々のドラマや映画を制作。現在NHK教育テレビ「みんなの手話」の講師として出演中。

● 作品歴

1999年『絵本であそぼ』／2001年『先生』／2002年『君は誰?』／2003年『ドキドキニュース』／2004年『あきらめないで』聴覚障害者映像フェスティバルin嵯峨野で聴覚障害者映像大賞を受賞／2005年～2006年『わんぱく子ども放送局』／1996年『迂路』大館信広監督作品の演出・脚本 トロントろう映画祭で最優秀賞を受賞／2006年『ハワイに行きたい』カナガワフェスティバル2006で上映／2007年『カンボジアの風』第3回さがの聴覚障害者映像祭でフィクション部門賞を受賞

| 私たちは、「ゆずり葉」上映を応援します (敬称略・五十音順)

伊福部 達 東京大学教授
岩佐 徳太郎 (財)交通エコロジー・モビリティ財団
及川 力 筑波技術大学教授
大沼 直紀 筑波技術大学学長
尾瀬 あきら 漫画家
小畑 修一 筑波技術大学名誉教授
鎌田 一雄 宇都宮大学教授
久保 豊子 公認会計士
小池 百合子 元環境大臣・衆議院議員
坂口 力 元厚生労働大臣・衆議院議員
笹川 吉彦 (社福)日本盲人会連合
塩谷 治 (社福)全国盲ろう者協会
志賀 公江 漫画家
蘭田 碩哉 実践女子短期大学教授
高木 美智代 衆議院議員
高田 英一 NPO法人CS障害者放送統一機構
高橋 儀平 東洋大学教授

高嶺 豊 琉球大学教授
田口 哲朗 弁護士
田門 浩 弁護士
中川 辰雄 横浜国立大学教授
成澤 廣修 東京都文京区長
野澤 克哉 日本聴覚障害者ソーシャルワーカー協会
平野 浩二 医師・手話通訳士
福島 智 東京大学准教授
藤井 克徳 きょうざれん
星川 安之 (財)共用品推進機構
松井 亮輔 法政大学教授
松原 幸夫 新潟大学教授
村越 進 弁護士・日本弁護士連合会副会長
森元 勝人 (財)現代人形劇センター
八代 英太 元郵政大臣
善岡 修 デフ・パベットシアター・ひとみ
吉住 弘 東京都台東区長

うつみ 宮土理 タレント・小説家
西村 知美 タレント
小林 綾子 女優
豊川 悦司 俳優
清水 きよし バントマイミスト
林家 正蔵 落語家
浜 本綿子 女優

- 日本医師会
- 社団法人日本薬剤師会
- 日本弁護士連合会
- 特定非営利活動法人
全国聴覚障害者情報提供施設協議会
- 全国手話通訳問題研究会
- 日本手話通訳士協会
- 社会福祉法人 全国手話研修センター
- 社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

| 事業計画

映画名称 「ゆずり葉」
形態 35mmフィルム・ブルーレイ・ディスク／DVD 80分
製作 (財)全日本ろうあ連盟・(株)エイコークリエイティブ
製作総指揮 安藤豊喜
総合プロデューサー 庄崎隆志
プロデュース協力 中橋真紀人(映画プロデューサー)
脚本・監督 早瀬憲太郎
脚本協力 山本おさむ(漫画家)
製作協力 佐藤武光(映画監督)
撮影期間 2008年9月1日～30日
予備:10月～12月
映画完成予定日 2009年4月
映画上映 2009年7月より全国で上映
上映形態 映画配給および各市町村単位による上映促進委員会形式
上映回数 全国500箇所上映
観客対象 一般公開

| 映画制作・上映スケジュール(案)

2008年

5月 第1回製作委員会
6月 第56回全国ろうあ者大会での製作発表(福井)
7月 メインキャスト選考会
8月 脚本決定稿完成
9月 マスコミへの製作発表(東京)
クランクイン
ロケーション(30日間)
クランクアップ
10～12月 編集・仕上げ作業

2009年

3月 映画完成試写会
6月 第57回全国ろうあ者大会(茨城県)での上映
7月 全国上映開始(～2010年3月)

| 資 金 計 画

◆映画製作総事業費7000万円を目標額とします

◆目標額を達成するための下記の通り取り組みます

法人・団体および個人よりご寄付を仰ぐ
文化庁、芸文協などの助成金の申請を行う
上映権の販売及び上映料の徴収を行う

◆法人・団体及び個人よりのご寄付は下記の通りです

法人・団体:20万円(一口)

パンフレット等に法人・団体名称を入れる

映画のクレジットに法人・団体名称を入れる

日本聴力障害新聞(発行18000部)紙上キャンペーンでの広告を提供する

全国共通鑑賞券(試写会含む)を10枚提供する

パンフレットを10部贈呈する

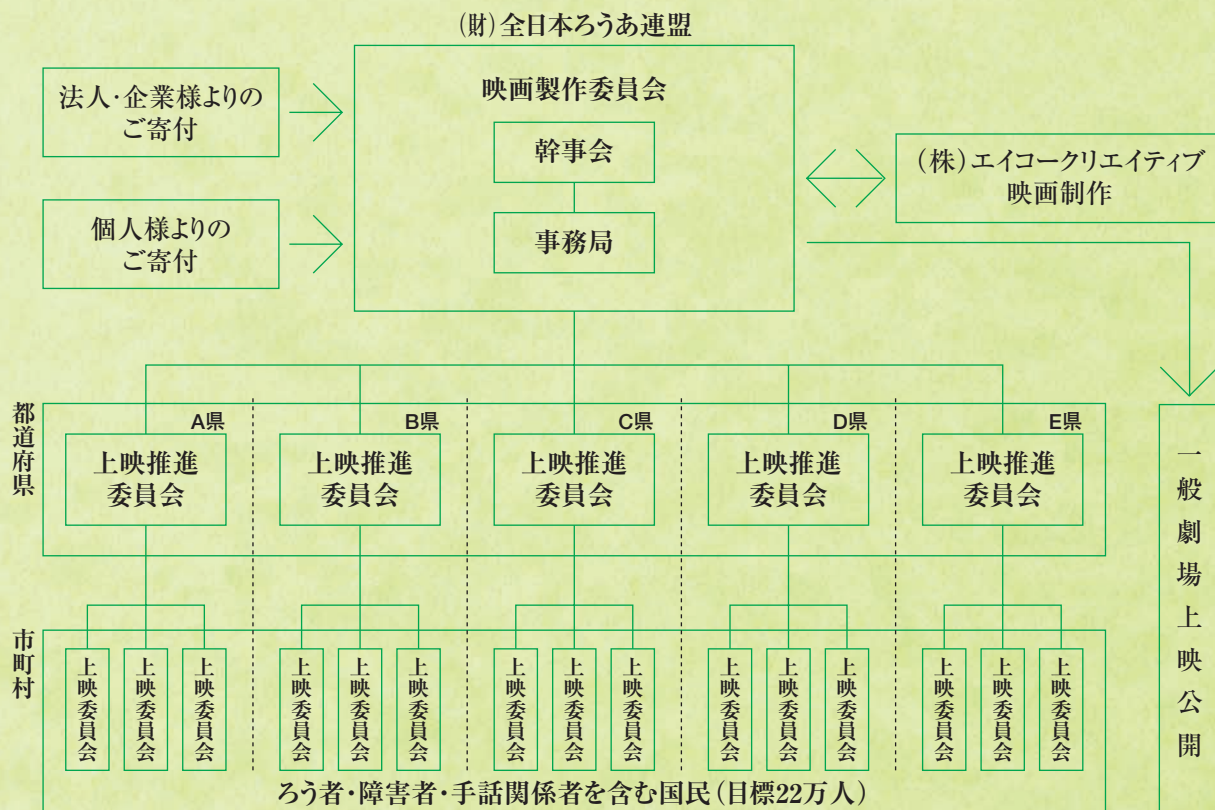
個人:2万円(一口)

パンフレットに氏名を掲載する

全国共通鑑賞券(試写会含む)を2枚提供する

パンフレットを1部贈呈する

サイン入り脚本を1部贈呈する



| 製作委員会構成

◆全日本ろうあ連盟創立60周年記念映画「ゆずり葉」製作委員会は、以下の委員をもって構成し、幹事会及び事務局を設置します。

製作委員会委員長（製作総指揮）

安 藤 豊 喜 （財団法人全日本ろうあ連盟理事長）

製作委員会（幹事）

松 本 晶 行 （財団法人全日本ろうあ連盟副理事長）

石野富志三郎 （財団法人全日本ろうあ連盟副理事長）

小 中 栄 一 （財団法人全日本ろうあ連盟事務局長）

市川恵美子 （全国手話通訳問題研究会運営委員長）

小 椋 英 子 （日本手話通訳士協会会長）

山 本 お さ む （漫画家）

佐 藤 武 光 （映画監督・日本映画学校講師）

中 橋 真 紀 人 （映画プロデューサー）

製作委員会委員

大 館 信 広 （デフムービーエンターテイメント「プロディア」代表）

梅 田 ひ ろ 子 （NPO法人CS障害者放送統一機構理事）

大 屋 隆 （財団法人全日本ろうあ連盟組織部長）

長 谷 川 芳 弘 （財団法人全日本ろうあ連盟会計部長）

比 嘉 豪 （財団法人全日本ろうあ連盟文化部長）

黒 崎 信 幸 （財団法人全日本ろうあ連盟参与）

倉 方 厚 子 （社団法人東京都聴覚障害者連盟理事長）

植 野 圭 哉 （社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会理事長）

清 田 廣 （社団法人大阪聴力障害者協会会長）

河 合 依 子 （全日本ろう者演劇会議会長）

製作委員会事務局

久 松 三 二 （財団法人全日本ろうあ連盟本部事務所長）

大 杉 豊 （筑波技術大学准教授）

庄 崎 隆 志 （俳優・演出家・オフィス風の器）

那 須 英 彰 （俳優・NHK手話ニュースキャスター）

早 瀬 憲 太 郎 （学習塾早瀬道場経営）

顧問

日 野 原 重 明 （聖路加国際病院名誉院長）

| 製作委員会の規約

第一条（名称）

本会は「全日本ろうあ連盟創立60周年記念映画製作委員会」（以下「製作委員会」とする）を称し、財団法人全日本ろうあ連盟内に置く。

第二条（目的）

「製作委員会」の目的は、映画作品を通じて、ろう者への理解・啓発、手話の普及を図り、親や子どもたちに夢を与え、新しい映像文化を創造していくことを目的とする。

第三条（事業）

「製作委員会」は、前条の目的を達するために次の事業を行う。

- (1) 映像作品及び劇場用映画製作のための企画・支援活動
- (2) 広報活動
- (3) その他必要とする事業

第四条（運営費）

「製作委員会」が事業を遂行するために必要な経費は、(財)全日本ろうあ連盟拠出金、法人寄付金、個人寄付金のほか「製作委員会」が得た収入をもって当てる。

第五条（事業年度）

本会の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第六条（構成）

「製作委員会」の構成は以下のとおりとする。

- (1) 委員長1名、委員若干名、顧問、及び監事2名を置く。
- (2) 委員長は「製作委員会」を代表し、会務を統括する。
- (3) 「製作委員会」に事務局を設ける。
- (4) それぞれの任期は2年とする。

第七条（顧問）

「製作委員会」に顧問を置くことができる。

顧問は、第三条に定める事業について助言を行い、「製作委員会」に出席して意見を述べることができる。

第八条（会議）

委員長は、必要に応じ委員会を招集し、委員長を議長として次の事項を協議する。

- (1) 事業計画及び収支予算
- (2) 事業報告及び収支決算
- (3) その他委員長が必要と認めた事項

第九条（幹事会）

幹事会は、「製作委員会」の運営に関して必要な事項、特に上映普及活動等、委員会に付議する事項を審議する。幹事は、委員の中から委嘱する。

第十条（事務局）

「製作委員会」の事務を処理するために財団法人全日本ろうあ連盟本部事務所に事務局を設け、所要の職員を置く。

東京都新宿区山吹町130 SKビル8F

財団法人全日本ろうあ連盟本部事務所内

第十一条（監査）

「製作委員会」の収支決算は、年度終了後2ヶ月以内にその年度末財産目録とともに監事の監査を受けなければならない。

第十二条（細則）

この規約の施行について必要な事項は、別に細則で定める

付則1.この規約は平成20年4月9日から施行する。

映画「ゆずり葉」ストーリー



ある夏の暑い日の工務店。ろう者のベテラン大工、敬一が突然倒れた。入院を拒む敬一は、耳が聞こえず最愛の恋人を病気で亡くした過去を引きずっていた。

それは昭和40年代にさかのぼる。字幕がついていなかった映画を敬一の耳になって通訳してくれた早苗と将来を約束するものの、早苗の両親はろう者である敬一との結婚を決して許さなかった。「私たちにも運転免許を!」ろう者の権利を訴える運動の記録映画を撮影していた敬一が夜遅く帰宅したとき、早苗が意識不明で倒れていた。当時、子どもを身ごもっていた早苗は息を引き取ってしまったのである。



30余年たった1999年、それは運転免許や民法11条改正などを勝ち取ってきたろう者と手話通訳者の差別法令改正運動が頂点に達した年でもあった。全国からの署名が150万を超えるとき、運動家の大川は早苗の死で中断した記録映画を、この大きなうねりの中で完成させたいと、敬一に続きを撮ってほしいと訴えた。



すでに肺がんにかかっていた敬一は迷った。そんな時、敬一は薬剤師試験に合格しながらも欠格条項により国家資格を却下された尚美（聾）に出会った。また自分の気持ちを舞台上で表現したくてもオーディションになかなか受からないでいる吾朗（聾）にも出会った。

いま自分がやらなくて誰ができるというのだ!このまま何もしないで早苗に天国で合わせる顔があるのか…。

敬一はカメラをもって立ち上がった、記録映画を完成させて次の若い世代に手話と仲間の大切さを伝えていくために。

(財) 全日本ろうあ連盟の活動



全日本ろうあ連盟
創立60周年記念映画製作委員会

委員長(製作総指揮) 安藤 豊喜
事務局長 久松 三二
総合プロデューサー 庄崎 隆志

〒162-0801 東京都新宿区山吹町130 SKビル8階
財団法人全日本ろうあ連盟内
TEL/FAX.03-3260-8124
URL: <http://www.jfd.or.jp/movie/>
E-mail: movie@jfd.or.jp